

第11回（地独）京都市産業技術研究所と 京都工芸繊維大学繊維科学センターとの研究交流会

海洋プラスチック汚染の問題が近年クローズアップされ、経済的に持続可能な循環型の社会システムの構築が求められている。このような社会の実現にはバイオ素材に対するニーズの大幅な拡大が予想され、天然高分子の有するポテンシャルを活用した新素材の創出やバイオプラスチック、生分解性プラスチックの開発促進が急務となっている。そこで、今回の研究交流会では天然高分子の高機能化ならびに生分解性高分子の開発をフォーカスして大学との研究連携、研究推進の可能性について検討するものとする。（参加費無料、事前申込み不要）

日時 令和2年1月16日（木）14：00～17：15

会場 京都工芸繊維大学創造連携センター2階 プレゼンテーションルーム

内容

●14：00～14：10

(1) 挨拶 京都工芸繊維大学繊維科学センター長 佐久間 淳

(2) 研究発表

座長 (地独) 京都市産業技術研究所 理事・研究室長 杉浦 和明

●14：10～14：50

【テーマ】「薄膜旋回法による漆の分散について」

【発表者】(地独) 京都市産業技術研究所 高分子系チーム 主席研究員 橘 洋一

【概要】漆は、古来より使われてきた天然樹脂塗料であり、我々に非常になじみ深いものです。これまでに、高品質な漆の開発を目的として、漆の精製技術は種々検討されてきました。その流れを紹介すると共に、京都市産技研で行ってきた分散技術を用いた漆の改質について報告します。

●14：50～15：30

【テーマ】「バイオプラスチックを活用した複合材料」

【発表者】(地独) 京都市産業技術研究所 高分子系チーム 研究副主幹 仙波 健

【概要】植物由来、生分解性などの環境性能を備えたバイオプラスチックへのニーズは、近年ますます高まっています。本発表では、京都市産技研において、これまでに検討したバイオプラスチックをマトリックスとしたポリマーブレンド、繊維強化材料の力学的特性を中心に紹介します。

●15：30～15：45 休憩

座長 京都工芸繊維大学繊維科学センター シニア・フェロー 早水 督

●15：45～16：25

【テーマ】「天然高分子材料の利用とその可能性」

【発表者】京都工芸繊維大学繊維学系 准教授 青木 隆史

【概要】持続可能な社会を構築するために必要な素材開発には、様々なアプローチがあります。自然が作った高分子量の素材を活用するのも、その一つです。しかし、石油系素材の長所に魅了されて活用してきた現代人にとっては、天然高分子を廃棄してきたこともあり、どのような素材がどのように有用で、どのような調製方法が有効であるのかの情報や経験の蓄積が必要です。柔軟な発想から天然高分子素材の利用に向けた基礎研究の内容について紹介します。

●16：25～17：05

【テーマ】「生分解性高分子の開発とその展開」

【発表者】京都工芸繊維大学繊維科学センター 研究員 増谷 一成

【概要】マイクロプラスチックによる海洋汚染問題を契機に、再び生分解性プラスチックが注目されつつあります。本発表では、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）のSIPリグニプロジェクトで行った生分解性高分子の開発とその展開について紹介します。

《本件問い合わせ先》京都工芸繊維大学繊維科学センター事務室
TEL:075-724-7701 FAX:075-724-7705 E-mail: fiber@kit.ac.jp
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1 13号館 402D